

「なりたい自分になりたい」

佐々木麻美

(幼稚園教諭)

保育者になって十数年。娘を出産してからフリーとして保育に携わってきた私にとって、昨年は、久しぶりの担任生活となりました。家で夕飯を食べていると、「ママ、頭の中の半分以上、幼稚園のこと考えているでしょう」と言われ、ふと我に返ったことがあります。中でもA夫とのかかわりは、一学期からいろいろかかわってみるものの、なかなかぴたっとこず、考えることも多くなりました。

進級して……

A夫は、年少のときから仲の良かったB夫

と同じクラスに進級しました。新しいクラス、新しい担任、新しい環境の中で、お互いを支えにし、一緒の道具を持って園庭を歩いたり、同じ場所で遊んだりする姿も多く見られました。しかし、夏のある日のこと、A夫は他の友達と一緒に園庭を歩きながら、わざわざB夫に向かって「B夫君とは遊ばないからねー」と言いました。B夫は泣きました。その場にいた私も、何があつたのだろうと、とても驚きました。その後、B夫は自分から遊びを見つけるようになっていき、A夫は一人であることが増えてきました。

悶々とした日々

秋になると、A夫の不安定な様子が顕著になりました。この日は、朝からみんなの作ったものを触っては、つぎつぎと壊していました。かかわりを求め、一人ではどうにもできずにいる気持ちは伝わってくるけれど、話そうとすると、にやっとして逃げてしまうことを繰り返していました。私は、よし、A夫とかわるぞと決め、やっと思いつき、幼稚園の片隅に二人で座りました。

「今日一日そうやって、みんなのもの壊して過ごすの？」話のとっかかりに、わかっていながら聞いてみると……首を横に振るA夫。(そうだよね。それなら……)「何かやりたいことがあれば一緒にやるから教えて」。A夫の心の奥が知りたく、何か私にできることはないかという気持ちで訴えました。答えが返っ

てくるのだろうかと不安でしたが、A夫は小さな声で「にんじゃ」と答えてくれました。「そうなんだ！ よし！ やろう！」とすぐ立ち上がると、A夫も足取り軽くお部屋に向かいました。長い廊下を歩きながら「忍者のものを作ることできるし、忍者に変身して修行もできるけど、どうする？」と聞くと、「忍者になる！」と弾んだ声で言いました。

忍者の修行

A夫は友達がやっていた忍者の遊びを見ていたので、友達が使っていた修行のカードを見ながら、「片足ジャンプの術もできるよ」などと、A夫なりにアレンジして術をしました。そして、本に載っていた「洞穴の術」をするために、段ボールの洞穴も作ることにしました。というのも、A夫は友達が作ってクラスで使っていた段ボールの家に、邪魔する

ように入ったり壊したりしていたので、A夫の場所ができたらいかなという私の思いもあつたからです。友達もA夫が忍者の修行をしていることに気づき、一緒に洞穴に隠れ、出てくるという術を始めました。

午後、私は子どもたちと舞台上で忍者の曲をかけて踊っていました。A夫は一度も踊ったことはありませんでしたが、忍者の剣を三本持つて廊下をうろうろしていたので、みんなが舞台上で踊っていることを伝えてみました。するとA夫は、さっと部屋に剣を置き、舞台まで走っていった、みんなが踊る真ん中で踊り始めたのです。気持ちの赴くままに体も心も動き、弾んで踊る姿に、忍者になれたこと、ずっとやりたいと思っていたことができ、何かがふつ切れたことの、子どもにとつての意味を感じずにはいられませんでした。

洞穴から城へ

数日後、洞穴にA夫が大事なものを持ち込んでいたので、外へとつながるように「秘密の扉を開けてみようか？」と、一緒に窓を二つ開けました。しかし、洞穴の中は狭く、入ると身動きが取れないので、翌日、洞穴の入り口にくっつけてゴザを敷き、そのゴザを囲う囲いを牛乳パックで作ることを提案しました。牛乳パックに新聞紙を詰め、横に倒してつなげて見せると、すぐにやり方をのみ込み、手を動かし始めました。私が他の遊びにもかかわっている、「なんでそっちに行くんだ、来ないと○○（呼び捨て）って呼ぶぞ」と言ってくる。笑いそうになりましたが、A夫なりに私に伝えようと必死に考えたことが痛いほどわかったので、A夫のそばで作り続けました。たった一段の低いコの字型の囲いが出来上がり、二人で中に座りました。以前作

った亀も連れて、「電話もあるよ」と見せてくれたので、「隣のレストラン」に宅配の注文をし、二人と亀でおいしいご飯を頂きました。

お弁当の間もその場所をとっておくと、午後は友達五人が加わり、囲いを基点に積み木やついたなどで場を広げ始め、そこは忍者の城となりました。城の外の人に戦いを挑み、友達の中で生き生きと動き回るA夫。自分を安心して出し、楽しそうに動いている姿に、私もうれしくなりました。翌日も、朝からすぐ動き始め、部屋中のものを使って、さらに自分の思いを表して作っていきました。

「なりたい自分になりたい」

誰でもなりたい自分はあるけれど、なれないときもあります。そんな悶々としたとき、本当に子どもが必要としていることが何なのか、なかなかわからず、私も苦しみます。た

だ、A夫がなりたい自分になれず、もがいていることはわかりました。私は、A夫が表すその時々することに寄り添いながら、洞穴にいるA夫と友達がかかわれる場になったらと願い、入り口にゴザを敷きました。

そして、A夫がこうした開かれた場でも安心して遊べるようにと、私はもつと高い囲いを作ろうとイメージしました。今思えば、私はA夫を周りからそれくらい守らなければと思っていたのかもしれませんが。しかし、A夫は、たった七センチの高さの囲いで安心して動きだしました。誰からも見えて、誰でも入りやすい囲い。そこには、A夫の『僕はここで遊んでいるよ、みんな入っていいんだよ』というメッセージを感じました。

これからも、子どもが表すことから子どもの思いや願いを感じ、共にもがき、喜びあいながら、ゆつくり歩んでいきたいと思えます。